一般講演

- 1 鹿児島県桜島地区におけるタテツツガムシの分布。
○野田伸一¹⁾, 山本 進²⁾ (1) 鹿大・多島園研究センター, 2) 鹿大・医歯学研究科環境医学). Occurrence of *Leptotrombidium scutellare* larvae in Sakurajima, Kagoshima Prefecture. Noda, S. and Yamamoto, S.

鹿児島県はツツガムシ病の多発地で毎年 100 名程度の患者発生報告がある。山間部の道路に沿って約 1 km 間隔で行った黒布法によるタテツツガムシ幼虫の分布調査 (52 地点) で, 79% の地点でタテツツガムシが採集され, 患者発生が多い理由として, タテツツガムシが多様な植生に広範囲に分布していることを報告した。鹿児島県ではほぼ全域でツツガムシ病患者の発生が報告されているが, 火山活動が活発な桜島地区からは患者の発生報告がない。今回は, 桜島地区のタテツツガムシ幼虫の分布調査を行ったのでその結果を報告する。2002 年および 2003 年の 11 月に, 桜島の周回道路および山側に入った道路に沿った 34 地点で黒布法によるタテツツガムシの採集を行った。対照地点として桜島に隣接する脇登の 1 地点でも同様の採集を行った。対照地点の脇登では, 2002 年と 2003 年の 11 月にタテツツガムシ幼虫がそれぞれ 53 匹と 207 匹採集され, 調査時期はタテツツガムシ幼虫の発生時期であることが確認された。調査地である桜島地区の 34 地点では, タテツツガムシ幼虫 1 匹とフジツツガムシ幼虫 1 匹が各 1 地点から採集されただけで, 32 地点では全く採集されなかった。したがって, 桜島地区には周辺地域とは異なったタテツツガムシの生息に適していない環境条件が存在する可能性が考えられた。

火山灰の直接的な影響を調べる目的で, 火山灰の上にタテツツガムシ幼虫を放し, 実体顕微鏡下で観察した。タテツツガムシ幼虫が火山灰の上を歩行すると, その脚に火山灰の小粒子が付着し, 徐々に自由な行動ができなくなり, やがて完全に動きを止めてしまった。したがって, 火山灰の小粒子はタテツツガムシ幼虫の分布に影響を与えていることが考えられた。

- 3 食品工場におけるライトトラップを主体にした害虫モニタリング調査。○原 弘之, 鳥谷 健一, 荻野 和正, 大園 右文(株サニックス). Monitoring study of insects through using light traps in a facility of foodstuff. Hara, H., Toriya, K., Ogino, K., and Ozono, M..

食品工場における昆虫管理は異物混入対策だけでなく, 病原性微生物対策上も重要性を見直す時期が来ている。一方, 昆虫管理方法自体は HACCP や IPM の導入により, 侵入防止と発生源対策を最重要視しなければならない。このため, 我々は正確かつ状況に応じた方法で昆虫の生息状況を把握するための調査法の検討を進めている。

今回, 北部九州の製麺工場において実施しているモニタリング調査に関し, 平成 16 年 4 月から 9 月の結果についてとりまとめたので, その結果を報告する。

定期調査は, ライトトラップを主体とし, 発生源調査は残渣/汚泥回収及びフェロモントラップにより実施した。

工場内は全区域における昆虫生息調査では, 内部発生兼外部侵入種としてユスリカ・チョウバエ・チャタテ, 内部発生種ではシバンムシ, 外部侵入種としてはクロバネキコバエ・ノミバエ・タマカ等が主要な種であった。工場を内部製造区域と搬入口と接する侵入区域に分けると, 侵入区域では外部から侵入する昆虫種が大勢を占めた。一方, 内部製造エリアでは内部発生であるチャタテ・シバンムシが大勢を占め, 外部侵入虫の多くは内部発生虫に寄生するハチ類や内部発生虫を捕食する昆虫所謂天敵昆虫であった。寄生蜂類の消長は貯穀害虫類の消長と同様の傾向が見られた上, 発生源調査の培地よりタコバチ科種の発生も確認された。発生源調査においては, ライトトラップに捕獲されない貯穀害虫も大量に発生しており, 寄生蜂の飛来と非走光性昆虫潜伏の関連も示唆された。フェロモントラップによる調査において, シバンムシ・シシマダラメイガ共にライトトラップと同時期に捕獲されており, 調査には併用が望ましいと考えた。特にシシマダラメイガはライトトラップより効率良く捕獲された。

- 2 中国地方における哺乳類・鳥類の大型外部寄生虫相 (マダニ目, シラミ目, ノミ目, ハエ目蛹生類)。
○山内 健生 (広島大・院・生物圏科学・FSC). Large-sized ectoparasites (Acari: Ixodidida, Insecta: Phthiraptera, Siphonaptera, Pupipara) on mammals and birds of Chugoku District, Japan. Yamauchi, T.

中国地方における哺乳類・鳥類の大型外部寄生虫 (マダニ目, シラミ目, ノミ目, ハエ目蛹生類) の記録を整理したので, その結果を報告する。

マダニ目については, 2 科 24 種 1 未同定種 (中国地方新記録は 4 種: サワイカズキダニ *Carios sawaii*, ツノチマダニ *Haemaphysalis* sp. near *cornigera*, タヌキマダニ *Ixodes tanuki*, コウモリアシナガマダニ *Ixodes vespertilionis*) を確認した。

ノミ目については, 5 科 16 種 (中国地方新記録は 5 種: ミカドケナガノミ *Chaetopsylla mikado*, タヌキナガノミ *Paraceras melis sinensis*, *Monopsyllus argus*, *Ceratophyllus farreni chaoi*, ニワトリノミ *Ceratophyllus gallinae dilatatus*) を確認した。また, *C. farreni chaoi* による人体刺咬例も確認した。

ハエ目蛹生類については, 3 科 13 種 (中国地方新記録は 3 種: *Ornithomya fuscipennis*, ヒメシカシラミバエ *Lipoptena fortisetosa*, クロシカシラミバエ *Lipoptena sikae*) を確認した。ハトシラミバエの体表からはトリハダダニ科の 1 種の雌と卵が見出された。これは, ハトシラミバエへの便乗例と考えられる。

シラミ目については, 8 科 32 種を確認したが, 未同定個体が非常に多いため, 将来, 種数は大幅に増加するものと思われる。

- 4 我が国の *Simulium* (*Nevermannia*) 亜属に含まれるブユ種の分類学的検討。
○佐藤寛子¹⁾, 高岡宏行¹⁾, 福田昌子¹⁾, 斎藤一三³⁾ (1) 大分大学医学部感染分子病態制御講座, 2) 大分大学総合科学研究支援センター, 3) 麻布大学環境保健学部医動物学研究室) Taxonomic revision of *Simulium* (*Nevermannia*) in Japan. ○Sato, H., Takaoka, H., Fukuda, M. and Saito, K.

我が国の *Simulium* (*Nevermannia*) 亜属に含まれるブユ種について分類学的検討を行い, これまで本亜属の中で形態的にも系統的にも孤立している *S. konoii* の形態学的特徴を明らかにし, 更に *vernum* 種グループに属する 1 新種の記載を行った。今回 *S. konoii* が, 北米及びユーラシア大陸に分布する *Boreosimulium* 亜属に分類されることがわかった。本種はこの亜属の特徴である以下の形質を有する: 1) 雄雄成虫の *furcasternum* の下方突起が未発達, 2) 雌雄成虫の *pedisulcus* は深い, 3) 雄成虫の *style* が細く先細りである, 4) 雄成虫の *paramere* に数本の *hook* を有する, 5) 幼虫の触角に 3~5 の非着色帯を有する。更に, 本亜属の *vernum* 種グループに属する 1 新種 (本州と北海道に分布) の形態学的観察を行った。本新種は他種と蛹の呼吸管の分岐方法で容易に区別される。特徴として, 1) *katepisternum* は裸出, 2) 雌成虫の *genital fork* の *arm* に前方突起を欠く, 3) 繭は単純なスリッパ型で前方突起を欠く, 4) 蛹の呼吸管は 4 本で基部で 4 分岐し, 広がることなく前下方に伸びる, 5) *frontal trichomes* は 3 本で長毛, 6) *rectal organ* は単純型または 1~2 本の 2 次突起を有する等があげられる。既知種と比較した結果, 4) を除いて *S. subcostatum* に最も類似していた。